

## 観相資料の学際的研究

### パネリストのご紹介

氏名(所属専攻・職名)	相田 満 (日本文学研究専攻 准教授)
略歴	〔学歴〕 中央大学文学部国文学科 中央大学大学院文学研究科博士前期課程国文学専攻 中央大学大学院文学研究科博士後期課程日本漢文学専攻  〔職歴〕 東京都立本所工業高等学教教諭 国文学研究資料館助手・助教・准教授
専門分野	和漢比較文学・人文情報学
現在の研究テーマ	六国史・観相資料の文学的研究・歴史地理情報と暦象・オン トロジー・生き物供養碑

### 報告内容について

題名	観相資料の学際的研究 総論
概要	<p>人相見（面相）に代表される「観相」の歴史は古く、その裾野は広い。医学における望診・絵画における肖像の描き分け、言説方面では王朝創世神話の演出、才人説話の潤色など、古来より多くの痕跡を残してきている。</p> <p>日本における前近代・近代の相書は世界随一の残存量を誇ることからも、その知的体系の厚みが相当なものであった事は想像に難くないが、現代の占術界では人相専門の術者は稀少である。その理由は、人相は変化しやすいために確度が高くなく、今では四柱推命や易のような他の術法が主流だという。このことは、調査を行った台湾・中国でも同様に、人相見の衰退は世界趨勢といえるかもしれない。</p> <p>そこで、本研究では上記現状に鑑み、古典籍原本による観相学の知識体系の整理を志して「観相資料の文学的研究」（平21-23年度学振挑戦萌芽）・「観相資料の学際的研究」（平成24～26年度総合研究大学院）の補助を受けて共同研究を進め、データベース構築（観相トピックマップ）と内外の実態</p>

	<p>調査（東大阪市と台湾台北市・中国福建省泉州市）、および古代から近代までの相書以外の書からも関連する言説の収集と分析を行ってきた。</p> <p>本研究で特徴的な研究活動としては、</p> <p>A. 実際に関相師に占ってもらうこと。</p> <p>B. 相書の書誌調査および収集を行い整理（データベース化）と分析を行うこと。</p> <p>C. 日中における観相の言説を集め、相書と照らし合わせて分析すること。</p> <p>などが挙げられる。いずれにしても観相の具体相や知見を知り、その影響と言説との照らし合わせを行うことが、本研究活動の主目的である。</p> <p>実際に研究を進めてきた過程で痛感したことには、観相の説の継承性の高さと、その裾野の広さである。また、すでに読んだ事のある作品でも、観相の視点で読み返すと、また違った視点が見えてくることが多いことは、文学研究者にとっても重要である。さらには、本研究での特徴ある成果の一つに、観相の視点により絵の見方が変わったことが挙げられる。その一端はポスター発表で示した。</p>
--	--

#### パネリストのご紹介

氏名(所属専攻・職名)	三田 明弘(日本女子大学人間社会学部文化学科 教授)
略歴	<p>〔学歴〕 早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程修了 博士（文学）</p> <p>〔職歴〕 大葉大学外国語学部応用日本語学科 講師・副教授 日本女子大学人間社会学部文化学科 助教授・准教授・教授</p>
専門分野	説話文学・日中比較文学
現在の研究テーマ	『今昔物語集』震旦部の比較文学的分析、中国仏教説話の史的研究

## 報告内容について

題名	事例報告「説話文学に見る中国唐代の観相文化」
概要	<p>人相から人の未来を予告するというのは、説話におけるポピュラーなモチーフの一つであるが、中国最大の説話類書である『太平広記』においては、「卷二百二十一 相一」から「卷二百二十四 相四」が観相説話を類聚した部分となっている。</p> <p>その内容は、唐代の著名人たちの人相学的な特徴と運命の関連性や、観相の現場などが描写されており、唐代において観相が社会とどのように関わっていたのかを考察する上で重要なものとなっている。また、盲人の観相人や「相手板」という官界独特の観相についての説話なども含み、唐代の観相文化の解明に益する情報を豊富に含んでいる。それらの説話について考察を行い、さらに、『古事談』『古今著聞集』などの日本の説話に見られる観相説話にも言及したい。</p>